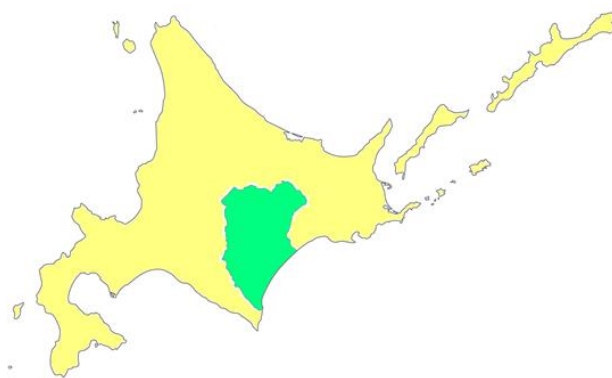


と か ち 経 済 情 報

令和 7 年 7 月 ～ 9 月



財務省 北海道財務局 帯広財務事務所

【利用上の注意】

・公表数値は、推計方法の変更等により、過去に遡って改訂される場合がある。

【問い合わせ先】

財務省 北海道財務局
帯広財務事務所 財務課
〒080-0015
帯広市西5条南8丁目
帯広第2地方合同庁舎
TEL 0155 (25) 6381

と か ち 経 済 の 概 況

住宅建設は前年を下回っている。一方で、個人消費、観光は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、生乳生産、公共工事は前年を上回っている。

このように管内経済は、**持ち直しつつある**。

項目	前回(令和7年4月～6月)	今回(令和7年7月～9月)	前回比較
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
1. 個人消費	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに持ち直している	
2. 観光	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
3. 雇用情勢	有効求人倍率は前年並み	有効求人倍率は前年並み	
4. 生乳生産	前年同期を大幅に上回る	前年同期を上回る	
5. 公共事業	前年度累計を上回る	前年度累計を上回る	
6. 住宅建設	前年同期を大幅に下回る	前年同期を下回る	

先行き	雇用・所得環境が改善する下で、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、物価上昇、米国の通商政策の動向に十分注意する必要がある。
-----	--

【参考】

項目	前回(令和7年4月～6月)	今回(令和7年7月～9月)
企業倒産	負債総額は前年同期を下回る	前年同期を上回る
金融	貸出金残高は前年を上回る	貸出金残高は前年並み

1. 個人消費

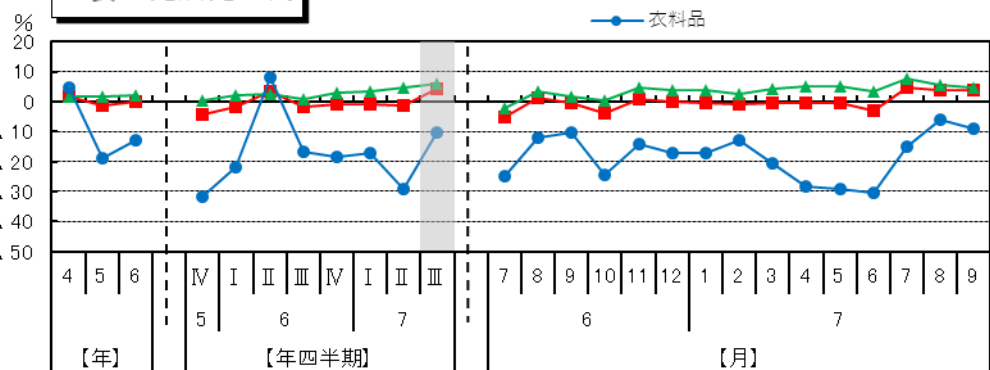
一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している

主要小売店売上高は、衣料品が前年を下回っているものの、飲食料品、身の回り品は前年を大幅に上回っていることから、全体では前年同期を上回っている。

乗用車販売（新車登録・届出台数）は、前年を下回っている。

このように、個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

主要小売店売上高

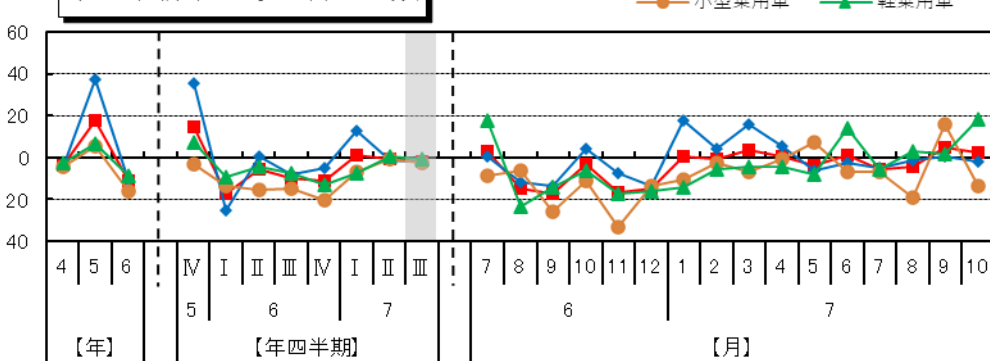


〔7-9月前年同期比〕

主要小売店計 +4.2% 飲食料品 +6.0% 衣料品 ▲10.2%

< 資料：管内主要小売店 >

乗用車新車登録・届出台数



〔7-9月前年同期比〕

乗用車計 ▲1.7% 普通乗用車 ▲2.0% 小型乗用車 ▲2.4%

軽乗用車 ▲0.8%

< 資料：帯広自動車販売店協会 >

〔企業・団体の生の声〕

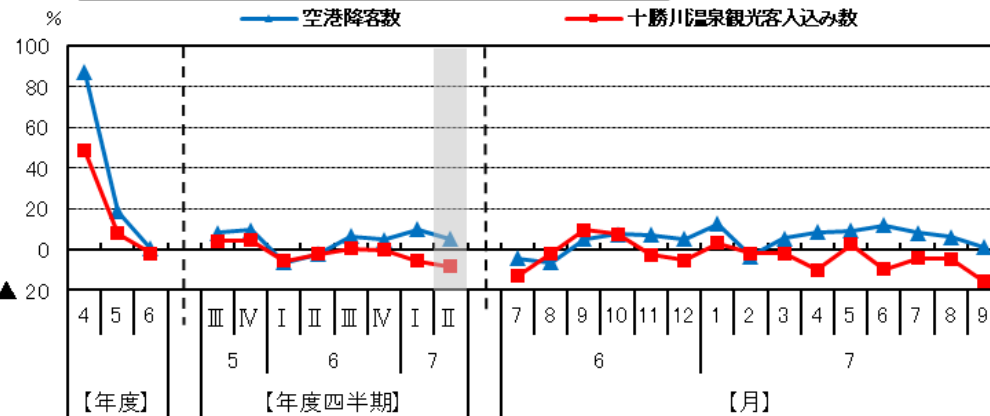
- 物価高騰の影響により、食品、耐久消費財、嗜好品の動きは日々鈍くなっているを感じる。反面、欲しい物であれば化粧品や靴などは多少高額でも売れている。
- 生鮮品では秋刀魚が豊漁であったため、一時回復したが、9月以降は秋鮭が不漁で売上も伸びなかった。
- 暖房用として使える寒冷地エアコンの売上が大幅に伸長し数量・金額共に増加した。
- OSのサポート終了の影響で8月以降はパソコンの販売が好調、ゲーム関連でも新作ソフトの売れ行きが良い。
- インフルエンザ流行の報道があった影響で加湿器や空気清浄機の売上も好調だった。
- 車は値上がり傾向にあるなか、道東地区の賃上げが追い付いておらず、実質賃金の低下によって、新車登録が伸びないのではとの声がある。
- 需要は引き続きあることから、一部メーカーの受注残は増加傾向にあると聞く。一方で、管内において車両の供給が追い付いていない。
- 2025年度下期は受注残の登録が進むことと新型車の販売が好調に推移することに期待したい。

2. 観 光

緩やかに持ち直している

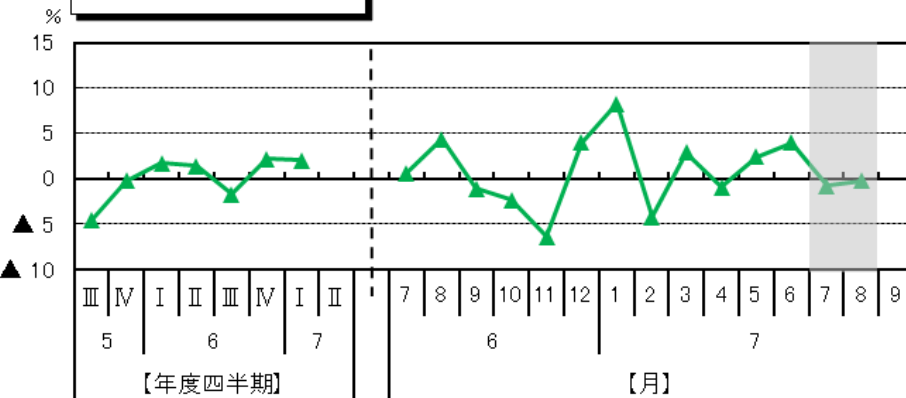
十勝川温泉観光客入込み数は前年を下回っているものの、市内ホテル宿泊客数は前年並みであり、空港降客数は前年を上回っていることから、緩やかに持ち直している。

空港降客数及び十勝川温泉観光客入込み数



< 資料：北海道エアポート(株) 帯広空港事務所、音更町（主要旅館5社） >

市内ホテル宿泊客数



< 資料：日本銀行釧路支店帯広事務所 >

〔7-9月前年同期比〕

空港降客数 +5.3% 十勝川温泉観光客入込み数 ▲8.3%
 市内ホテル宿泊客数 (7月前年比) ▲0.8% (8月前年比) ▲0.2%

〔企業・団体の生の声〕

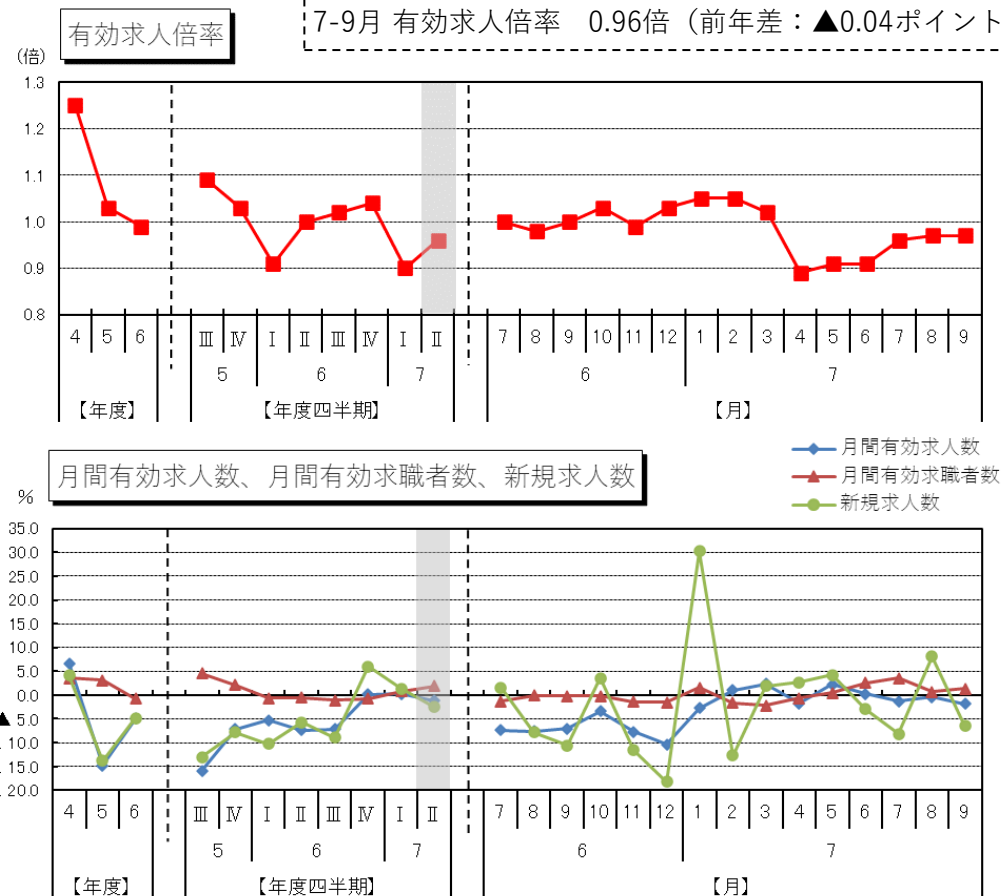
- 帯広空港の降客数は前年を上回っている。また、5月就航の韓国定期便の搭乗率が7月から上昇している。
- 7月5日に大地震があるといった風評により、香港や台湾の個人客が戻らなかった。
- 大きい団体のツアー利用が減少している。反対に、少人数の団体による利用が増加している。
- 今年は大阪万博があるため、北海道、特に道東への観光が候補に上がることが少なくなると考えていたが予想通りの結果となった。
- 市内では、韓国定期便の利用が7月から活発になったことによって、大手ビジネスホテルを中心として宿泊室稼働率が高まった。その影響で国内客が地元資本のホテルに流れており、良好であった。
- 先んじた予約による宿泊が減少しており、一週間前になってから予約が入るといったような事例が増加していた。このような急な予約は若い世代が中心だった。
- 11月から韓国定期便の帯広-清州間が増便となり、さらに帯広-仁川(ソウル)間が週に2往復新規就航することで、帯広・十勝の冬の観光の底上げになることを期待している。

3. 雇用情勢

有効求人倍率は前年並み

雇用情勢（パートを含む常用）をみると、月間有効求職者数は前年を上回り、月間有効求人数が前年を下回ったものの、有効求人倍率は前年並みとなっている。

新規求人数は、前年を下回っている。



<資料：帯広公共職業安定所>

〔7-9月前年同期比〕

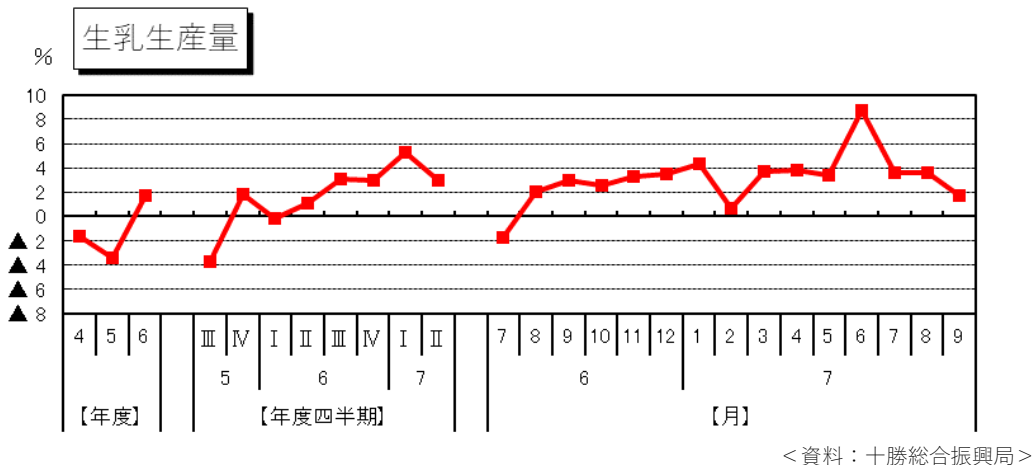
月間有効求人数 ▲1.2% 月間有効求職者数 +1.9%
新規求人数 ▲2.5%

〔企業・団体の生の声〕

- 企業に人手不足感は依然としてある。
- 資格が必要ない求人はすぐに決まるが、資格が必要な専門職は人が集まりにくい傾向がある。
- 途中で30-40代の方を積極的に採用している。若手のお手本となるような人材が欲しい。
- 引き続き人手不足の状態が続いており、スキマバイトの活用が必須となる店舗がある。
- スキマバイトのリピーターを直接雇用に切り替えることもできるので助かっている。
- 進学率が高まっており、新卒採用は難しくなっている。札幌や東京に進学するとUターンで戻ってくる人が少ないことが背景にある。

4. 生乳生産 前年同期を上回る

生乳生産量は、前年同期を上回っている。



〔7-9月前年同期比〕

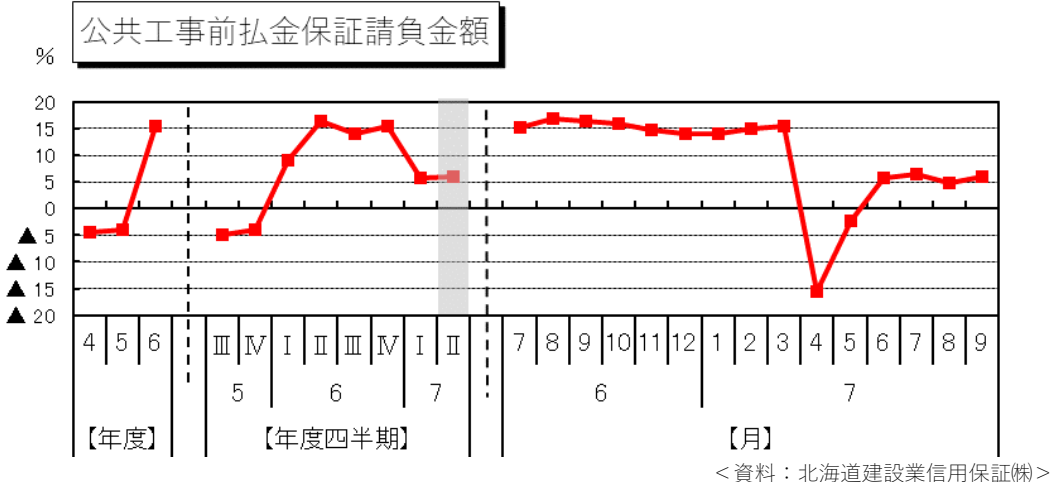
生乳生産量 +3.0%

〔企業・団体の生の声〕

- 一昨年の猛暑により酪農家が暑熱対策に取り込んでいたため、今夏の猛暑による悪影響は低減された。
- 9月は他の月と比べ猛暑による生産量低下が見られたことや前年の生産量が多かったことから、前年を上回った幅は小さくなっている。

5. 公共事業 前年度累計を上回る

公共事業を前払金保証請負金額でみると、道路及び農業基盤で増加したことから、前年度累計を上回っている。



〔9月末前年度累計比〕

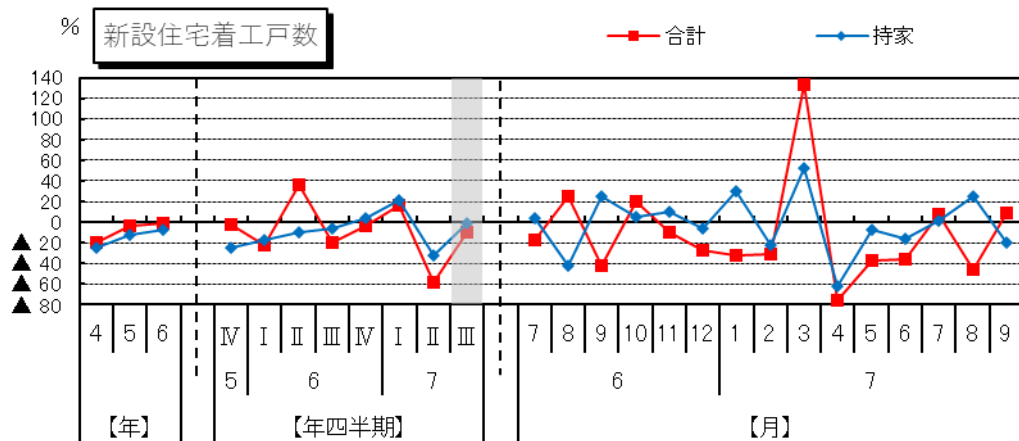
前払金保証請負金額 +6.1%

〔企業・団体の生の声〕

- 公共工事の動向は前年同期比若干のプラスで推移している。
- 国内人材の流出を防ぐべく労働者の処遇改善や生産性の向上が必要だ。

6. 住宅建設 前年同期を下回る

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家は前年並みであり、貸家は前年同期を下回っている。



<資料：国土交通省、音更町、幕別町、芽室町>

〔7-9月前年同期比〕

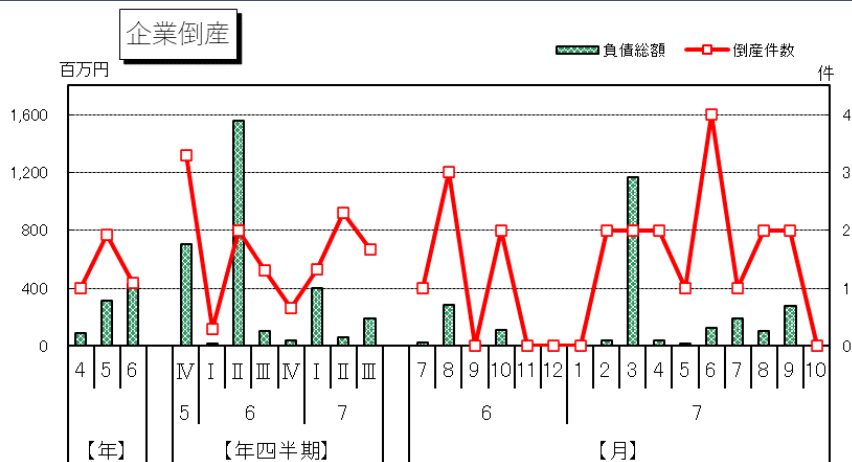
合計 ▲10.2% 持家 ▲1.5%

〔企業・団体の生の声〕

- 資材価格の値上げはまだ続いており、住宅資材メーカーからは次年度の値上げ通知がきている。
- 4月の建築基準法改正により着工までの期間が長期化している。

(参考) 企業倒産 前年同期を上回る

企業倒産は、件数は前年同期を上回っており、負債総額は前年同期を大幅に上回っている。



(注) 年、四半期は月平均。

<資料：(株)東京商工リサーチ>

〔7-9月 月平均〕

負債総額 192百万円

倒産件数 1.7件

〔7-9月 月平均前年同期差〕

負債総額 +87百万円

倒産件数 +0.4件

(参考) 金融 貸出金残高は前年並み

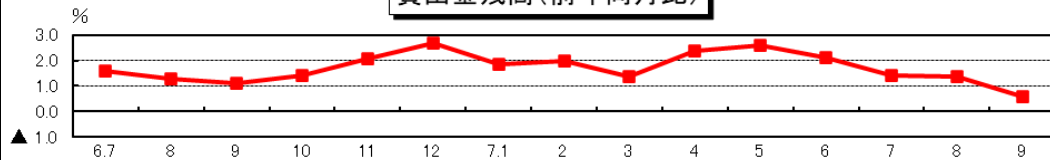
金融機関の貸出金残高（銀行・信用金庫・信用組合ベース）をみると、事業者向けは前年を下回ったが、個人向けは前年を上回っている。

（単位：百万円、％）

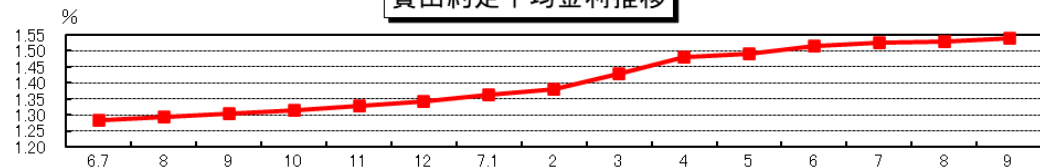
年 月	貸出金残高		事業者向け貸出						個人		地方公共団体	
		前年比		前年比	設備	前年比	運転	前年比		前年比		前年比
4. 9 末	845,297	1.2	496,983	0.3	197,220	2.5	299,763	▲ 1.2	275,913	3.1	72,396	1.0
5. 9 末	859,727	1.7	504,086	1.4	207,074	5.0	297,012	▲ 0.9	283,751	2.8	71,888	▲ 0.7
6. 9 末	869,341	1.1	511,653	1.5	211,462	2.1	300,191	1.1	289,319	2.0	68,363	▲ 4.9
7. 4 末	868,308	2.4	502,722	2.3	213,461	1.5	289,261	3.0	291,479	1.5	74,100	6.1
5 末	869,890	2.6	501,201	3.1	213,471	1.5	287,730	4.3	291,837	1.3	76,847	4.7
6 末	872,880	2.1	504,373	2.0	214,663	1.4	289,710	2.5	291,233	1.1	77,269	6.9
7 末	870,285	1.4	501,412	0.9	214,105	1.2	287,307	0.7	291,598	1.2	77,269	5.4
8 末	872,884	1.4	503,716	0.9	215,295	1.4	288,421	0.5	291,947	1.1	77,216	5.5
9 末	874,361	0.6	508,190	▲ 0.7	214,077	1.2	294,113	▲ 2.0	292,887	1.2	73,279	7.2

年 月	預金残高		要求払		定期性		貸出約定平均金利
		前年比		前年比		前年比	
4. 9 末	1,691,767	2.4	1,169,104	4.4	519,680	▲ 1.7	1.243
5. 9 末	1,713,734	1.3	1,206,642	3.2	504,172	▲ 3.0	1.248
6. 9 末	1,718,104	0.3	1,233,519	2.2	482,520	▲ 4.3	1.305
7. 4 末	1,738,791	0.2	1,263,594	1.4	472,743	▲ 2.9	1.480
5 末	1,721,468	0.4	1,244,584	1.8	474,621	▲ 3.1	1.491
6 末	1,738,390	▲ 0.6	1,256,719	0.0	479,429	▲ 2.1	1.514
7 末	1,723,898	▲ 0.4	1,243,220	0.4	478,389	▲ 2.4	1.525
8 末	1,727,628	▲ 0.1	1,247,600	0.5	477,675	▲ 1.6	1.529
9 末	1,711,640	▲ 0.4	1,234,868	0.1	474,333	▲ 1.7	1.541

貸出金残高(前年同月比)



貸出約定平均金利推移



(注)「貸出約定平均金利」の基礎データには、制度融資に関する金利データが含まれており、地方公共団体から受け取る利子補給分について、算定可能な限り、これを含めている。